

2016年の歩き初めは石川県まで足を伸ばしました。例年であれば、お正月にはすっかり雪景色になっている北陸も、今年は暖冬の影響でオリエンテーリングもまだまだ楽しめるコンディション。踏破した後には大幅なコース変更のあった2コースを目的に訪れてみました。今回は土井洋平氏が同行です。

「小松憩いの森」コース 石川県 No.5  
JOA 公認 No.372 5km 10ポスト

## 近くなった金沢

目覚まし時計を4つセットして、逗子4時53分発の始発電車に乗り込みます。東京駅まで追加の睡眠をとり、6時16分発のかがやき501号で一路金沢へ。長野からの先の北陸新幹線は初めての乗車です。大宮から土井氏と合流。東京駅からちょうど2時間半で到着する金沢に、ずいぶん近くなったものだと感心しきりです。

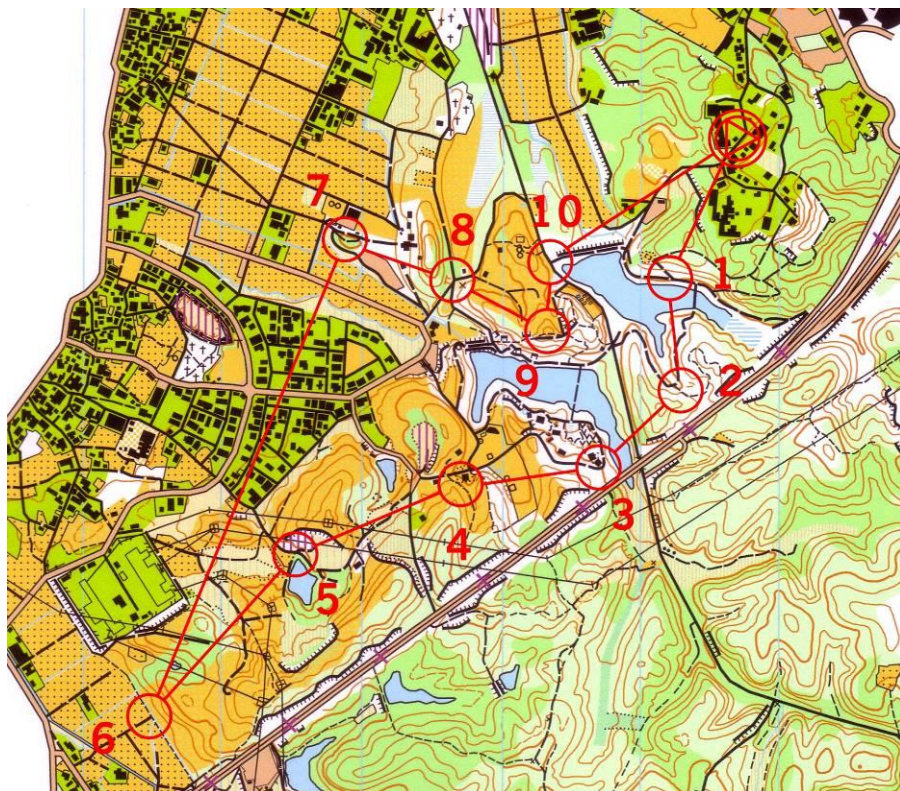
駅前でレンタカーを借り、まずは足慣らしに能美市にある辰口丘陵公園コースを回ります。家族向けの易しいコースと思いきや、不明瞭な小径に慎重なルートチョイスを求められる区間もあり、短いながらも回りごたえは十分。

1時間弱で終了し、本題の小松憩いの森コースへ向かいます。

## 2015年改定のコース

落ち着いた雰囲気のため小松温泉にある旅館まつやわた荘がスタート地点。小松温泉旅館観光協会のホームページにはオリエンテーリングができることもしっかり記載されています。歴史を感じる旅館のフロントを訪ねマップを求めます。対応してくれた奥様は物置をしばらく探したのち、大きな箱を抱えて戻ってきました。

2015年4月1日に更新されたマスターマップもあり、地図自体も前回のものから改訂されています。



楽しみなのは変更になったコースがどのように組み立てられているかということ。かつては4つのポストが設置されていた国道8号線の小松バイパス南に広がる丘陵地帯が熊の出没のため使用できなくなり、憩いの森を主体としたルートが新たに組み立てられています。案内板に掲示されているマップはフロントで取り扱っているものの1つ前の刷りのようで、PCのポスト位置には四角に斜め線のポストのマークが記されています。この表記は最新の地図からは削除されているため、1つずつ旧コースのポスト位置と比較すると、現在のコースとオープン時のコースの間に、双方を組み合わせたようなコースが存在していたように推察されます。管理のいい石川県だけに、時々状況に応じて最適なコースが組み立てられていたのではう。

## 再訪 20年ぶり

前回は平成7年9月ですから、ほぼ20年ぶりの再挑戦です。第1ポストまでの最短経路は最終ポストからゴールまでとほぼ重複することから、土井氏の提案で東周りのルートを選択します。

熊に注意の看板を横目に進むと眼下の景色がパッと開けます。松の植樹がなされたばかりの斜面の先には若杉堤と名づけられた池が広がっています。地図にはない新しい歩道を選んで下ると、分岐に立つポストが遠目に確認できます。石川県では平板のポストが多用されるなか、このコースはFRPの標準タイプが使用されています。天気予報が見事に外れて青空の広がるなか、まばらにたつ松の木を背景にポストのオレンジが鮮やかに映えています。

鴨が泳ぐ池の上に架かる清水橋を渡り、大きなカーブから分岐する小道の脇でかつての第1ポストだった現在の第2ポストを確認します。

2つ目の池、吉竹堤を渡る鏡見橋を

後にし、葉草園のある一帯にさしかかります。ほどなく現れる古民家は米谷家といい、江戸後期から明治中期まで北海道と瀬戸内海を結んだ北前船の回船問屋として栄えた由緒ある家柄の邸宅です。建築されたのは1822年で、1983年に小松市に寄贈され移築・保存されています。現在の北國銀行の母体ともなる米谷銀行を創設し、7代目の米谷半兵はのちに北國銀行の初代頭取に就任しています。

バイパスを背にして立つ第3ポストは目の前にあります。

野外ステージの前を過ぎ、トイレの奥で竹林に囲まれて立つ第4ポストを確認すると、憩いの森とは一時お別れです。



若杉堤畔の第1ポスト

近くに北陸電力新小松変電所がある関係で、この付近にくると送電線多数出現します。今では地図も分かりやすくなり、現在位置を見失うことはそれほどなくなりましたが、送電線に出会う度に子供の頃にこれを頼りにして現在位置を確認していたことを思い出します。池の北端の分岐で第5ポストを難なく発見。変電所へと歩を進めていきます。

送電線の鉄塔を縫いながらバイパス沿いに行くルートもありましたが、アップダウンを考慮して変電所の東側を回り込むことにします。わずかな区間、獣道然とした小径を経由し、変電所の南端までやってくると、折り返し地点にあたる第6ポストはもうすぐそこです。

出戻り後、変電所の西側を通って住宅地へと進んでいきます。庭木に兼六園のような雪吊りを施した家もあり、雪のないお正月に肩透かしを食らっているかのよう。このコース最大のロングレグの終盤に差し掛かると鳥居が見えてきます。幡生神社の境内に入ると間もなく右手に第7ポストを発見。立派な鳥居のため有人の神社かと思いきや、結局誰もおらず拝殿前はひっそりと静まりかえっています。

境内を抜け北に向かうと、すぐに分岐にある第8ポストに到達します。ここから再び憩いの森の領域です。

吉竹堤に出たところで左手に分かれる階段の道を選びます。登りきると竹林を従えているかのように立つ第9ポストを発見。そして若杉堤の西端まで下ってくると、最終ポストへもすぐに到着です。第1ポストと最終ポストが同時に見える地点があるほど、憩いの森内でのポスト間は接近しています。



真っ赤な鳥居の幡生神社

## 楽しみなご当地グルメ

スタートから約1時間半でコースも終了です。13時を過ぎ、お腹も減ったので、土井氏が事前にリサーチしていた名物小松うどんを食べにむかいます。中佐中店（なかさなかてん）というお店を訪ねると、風格漂う店構えに期待感が高まります。入口の正面にあるメニューサンプルの豪華さに、“アタリ”を確信。店内に入り、テーブルの中央に整然と並ぶコンロに目を瞠りつつ腰を落ち着け、ずらりと並ぶメニューに悩むことしばらく、土井氏は金沢市の郷土料理という「鴨じぶ（鴨の治部煮）」のはいった鴨じぶうどん鍋、私は鯛みそうどん鍋に決定。小松市内で製麺された麺であること、白山水系の水で仕込むこと、具材は「じのもの」を使うこと、といった定義八か条が小松うどんのホームページに掲載されています。待っている間にと、最初に出てきたのは北陸地方ではよく食べられるあんころ餅と抹茶。食前甘味とは意外な展開ですが、これがおいしいことおいしいこと。続けて登場した真打のうどん鍋はコンロに乗せて沸騰するまで待ち、煮立ったら火を弱めて数分待つと食べごろに。もちもち感のあるうどんに、この上ない出汁の味に、うまいうまいをただ連発。別の雑炊用のごはんも2杯ずつ頼み、さらに名物羽二重餅の乗ったアイスにコーヒーまで堪能して、至福のランチとなりました。

午後は小松城跡を見学。小さな天守

台が残るだけの遺構ながら、城を再興した加賀前田家3代前田利常の鼻毛のエピソードなど、土井氏が語るガイドはユニークで興味を掻き立てられます。最後は金沢に戻って尾山神社に参拝をして、朝早くから活動を開始した充実のこの日も終了です。

グッと便利になった北陸。繰り返し何度でも来たいという思いを抱かせてくれる旅になりました。

(2016年1月9日 踏破)  
(大高竜亮)



小松うどん